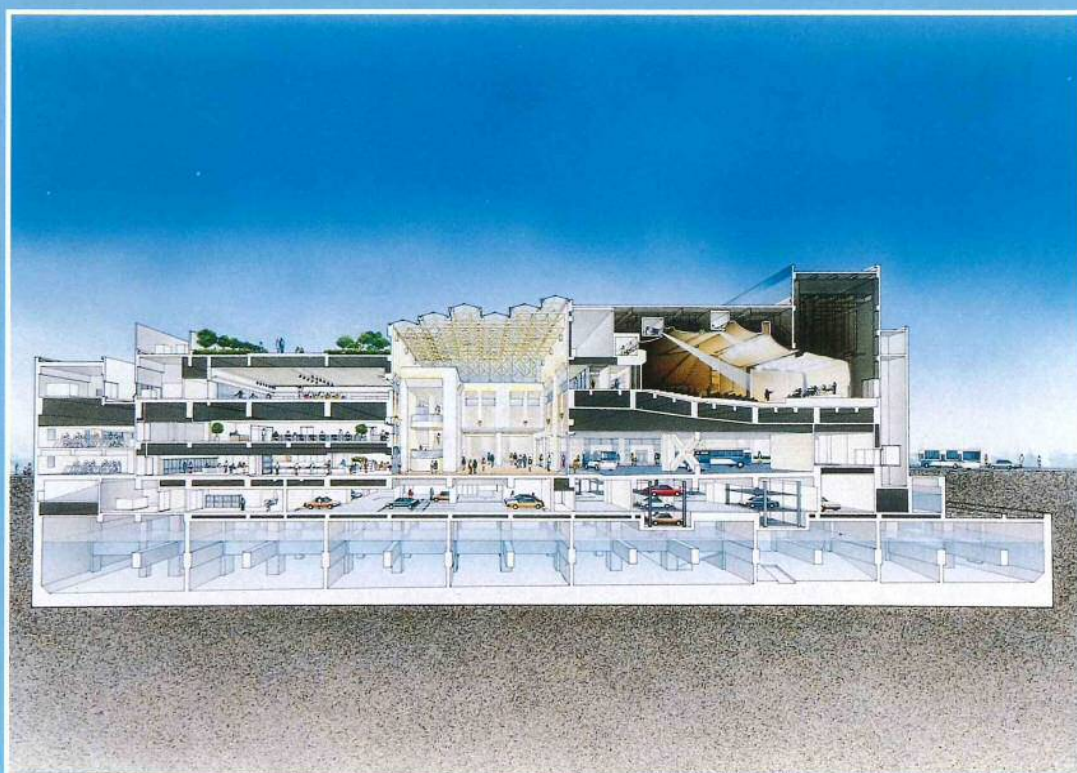
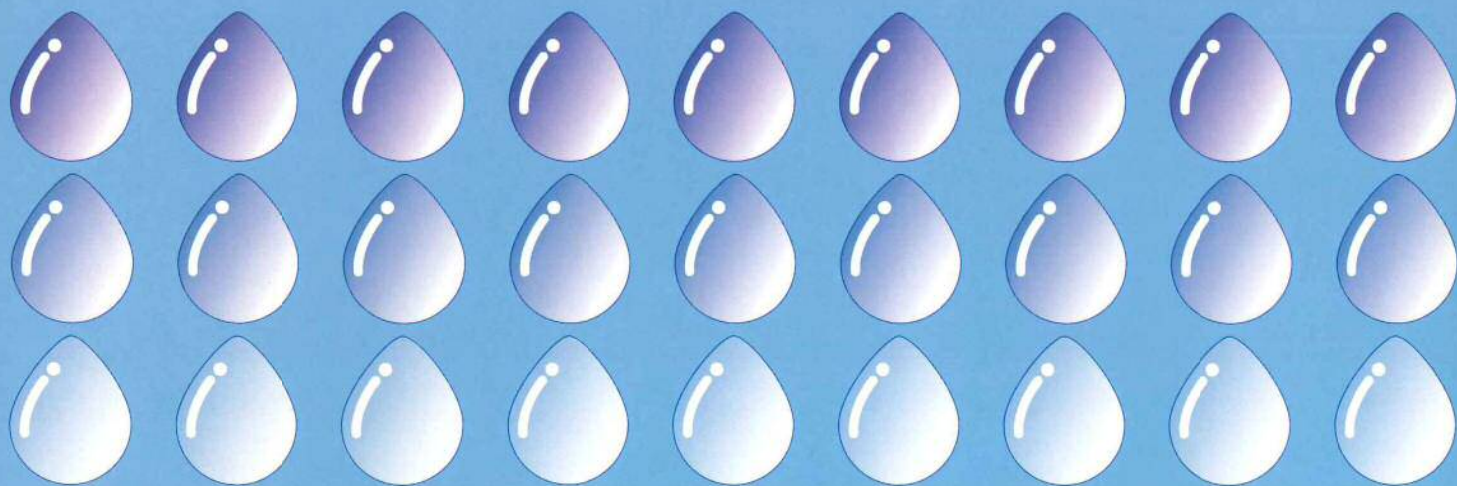




池調節社上

名古屋市

上社調節池について

準用河川植田川は、一部で名古屋市営地下鉄東山線が高架されている区間があり、将来計画（1時間に60mmの降雨・10年に1回発生する程度）に向けて、川幅を広げることが大変困難な状態となっています。

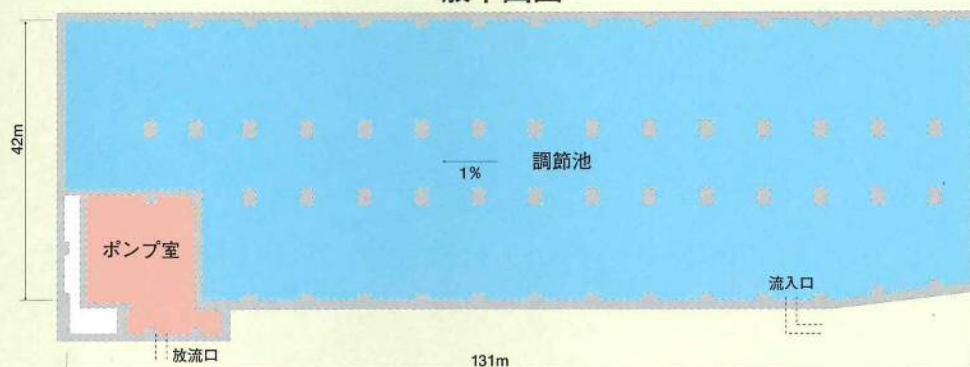
そのため、雨水を一時貯留できる洪水調節池を上社ターミナルビルの地下に計画しました。

上社調節池の工事は、丘陵地雨水対策事業により平成7年3月から平成10年3月にかけて行われました。また、接続される導水管の工事は、準用河川改修事業により平成8年12月から平成11年5月にかけて行われました。

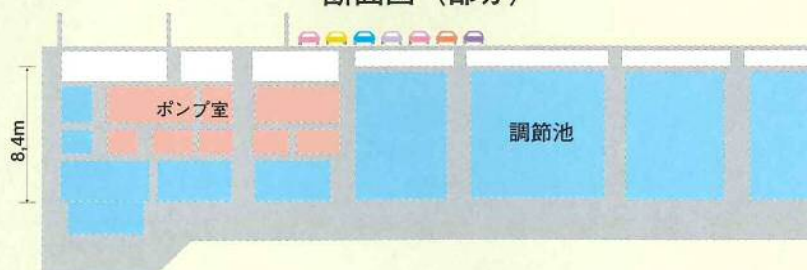


■上社調節池の概要図

一般平面図



断面図（部分）



◆調節池の諸元

延長	131m
幅員	42m
深さ	8.4m

◆貯留量

調節池容量	30,800m ³
導水管貯留量	4,700m ³
計（総貯留量）	35,500m ³

◆上社ターミナルビル

3F～8F	定住促進住宅
3F	文化小劇場 スポーツルーム
2F	貸事務所 自転車駐車場
1F	バスターミナル 店舗 自転車駐車場
B1	駐車場
B2	上社調節池



上社調節池の概要



① 取水口



② 流入口



③ 調節池



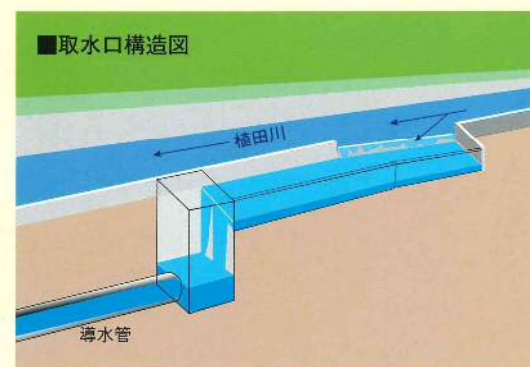
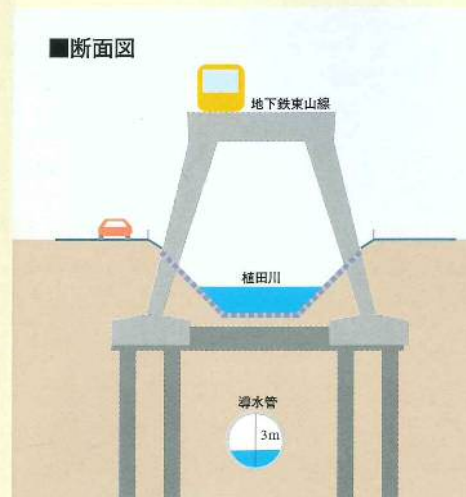
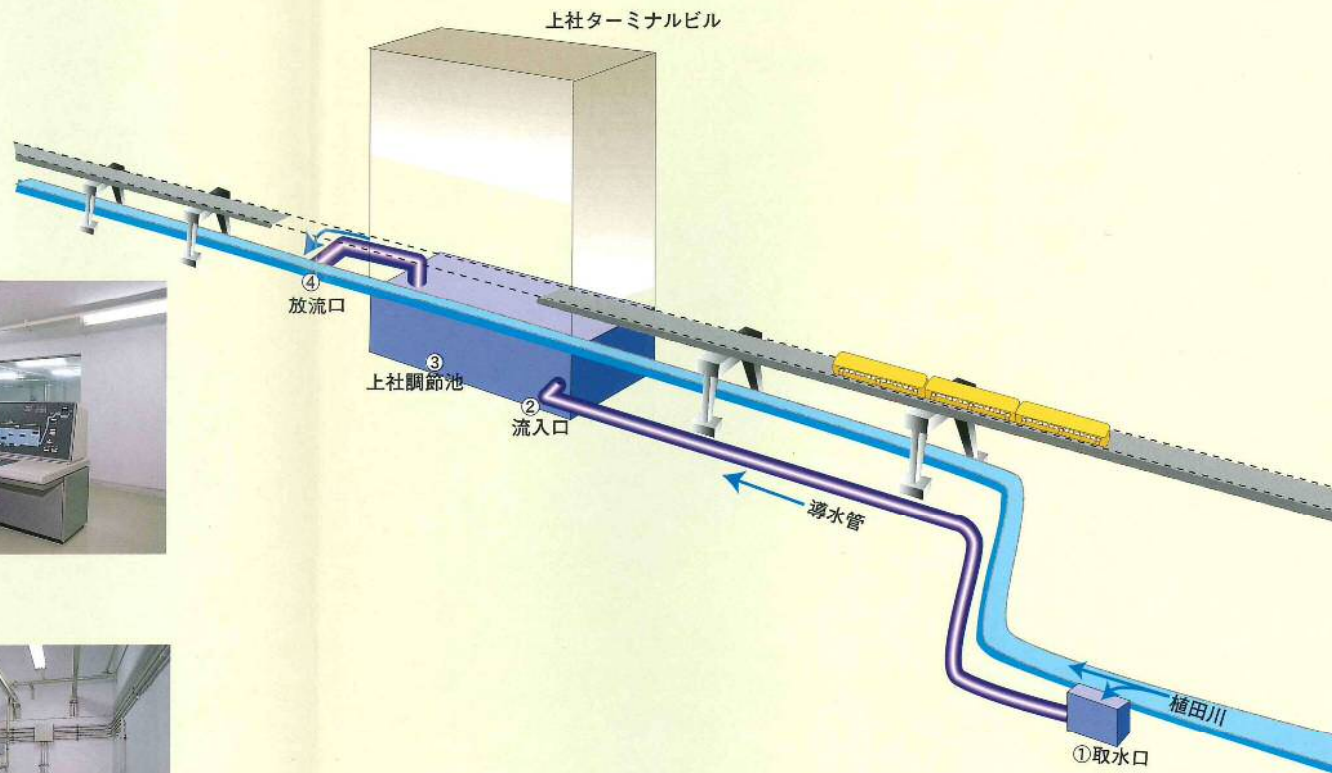
電気室 (操作室)



ポンプ室



④ 放流口



◆導水管の諸元

延長	688m
内径	φ 3m

準用河川植田川について

準用河川植田川は、愛知県長久手町より高針橋までの延長4.34km、流域面積9.82km²の河川です。

それより下流は二級河川植田川となり、二級河川天白川へ合流します。



流域の約5分の4は、昭和35年頃から宅地開発による市街化が進んできました。

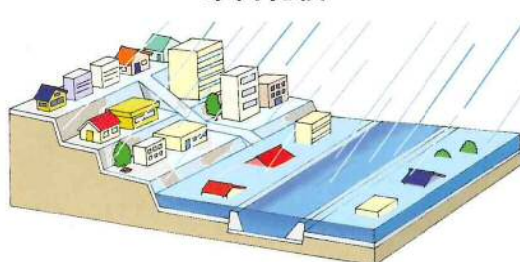
市街化が進むと雨水の流出状況が変わってきます

市街化前



降った雨は、森林や田畑などの地面にしみ込み、徐々に川へ流入します。また、点在するため池も川へ流入する水量を緩和します。

市街化後



地面の表出部分の少ない市街地では、降った雨はそのまま川に流入するため、川の水位は一気に上昇します。

そのため雨は地中にしみ込まず直接川に流れ込むようになり、たびたび浸水被害を起しました。その後、河川改修、下水道整備などの治水対策を精力的に進めています。

- ・昭和42～45年 高針橋から名古屋インター間の河川改修（土地区画整理事業）
- ・昭和50～53年 上流部の河川改修（準用河川改修事業）

これらの改修工事によって、1時間に50mmの降雨（5年に1回発生する程度）への対応はほぼ完成しました。

しかし、交通の便がよいため市街化の進展が著しく、丘陵地特有の雨水対策としてもさらなる治水安全度の向上が必要になってきました。



お問い合わせ

名古屋市緑政土木局河川部河川計画課

電話 972-2893

*再生紙（古紙配合率100%、白色度80%）を使用しています。